

物価の変化が均衡 GDP に与える影響

—— 総需要 (AD) 曲線 ——

物価水準が低いほど、均衡 GDP は大きい。その関係を示す曲線を総需要曲線、または AD 曲線という。

I. 均衡の GDP (有効需要水準の GDP) —— IS-LM 分析の復習

A. 生産物需給と貨幣需給の均衡 (IS-LM の均衡)

1. 生産物の需給均衡

$$Y = C + I = (a + cY) + I$$

ここで Y, C, I は GDP, 消費需要, 投資需要の実質価値

2. 貨幣の需給均衡

$$\frac{M}{P} = L(Y, r)$$

ここで M は名目貨幣流通量, P は物価水準, L は実質貨幣需要量, r は利子率

B. GDP と利子率の決定

II. 物価の変化による IS 曲線のシフト

A. 貨幣的資産: 名目価値が不変の資産

1. 現金通貨

2. 預金通貨

B. ビグー効果 Pigou effect (実質残高効果 Real balance effect)

1. 実質貨幣残高の変化

物価の下落 → 実質貨幣残高の増大 → 消費関数の上方へのシフト

→ IS 曲線の上方へのシフト → 均衡 GDP の増大

2. 派生的な問題

a. 有効需要の増大にともなう利子率の上昇

b. 利子率の上昇による投資需要の減少

III. 物価の変化による LM 曲線のシフト

A. 物価の下落が利子率に与える影響 —— GDP が変化しないとした場合の効果

実質貨幣供給量の増大 → 実質貨幣量の超過供給

→ 貨幣の需給均衡回復のため利子率の下落 → LM 曲線の下方へのシフト

B. 利子率の下落が均衡 GDP に与える影響

1. 投資需要の増大と均衡 GDP の増大

利子率の下落 → 投資需要の増大 → 均衡 GDP の増大

2. 派生的な問題

a. 有効需要の増大にともなう貨幣の取引需要増大

b. 投資需要拡大効果の縮小

参考文献

教科書．第 6 章，第 1 節（IS 曲線について），第 2 節，148–149 ページ（LM 曲線について），以上
復習．第 6 節（「総需要関数の導出」について）．第 9 章，第 3 節，250–251 ページ（ピグー
効果について）．

なお第 3 章にも「総需要曲線」「総供給曲線」の説明があるが，そこは読まなくてよい．